

Ⅲ 基本計画

第4章

地域の個性と魅力が輝く にぎわいと活力のあるまちづくり (抜粋)

(原案)

審議会の意見を反映した修正案

第4章（基本目標） 地域の個性と魅力が輝くにぎわいと活力のあるまちづくり

第3節（主要施策） おもてなしの心による賑わいの創出と魅力発信

第1項（施策分野） 観光

【第1次総合計画での主な取組】

- 南アルプス世界自然遺産登録やジオパーク、ユネスコエコパーク登録に向けた取組を推進しました。
- 市民参加型の観光体制を構築するため、市民ボランティアガイドの新規受入や既存ガイドの育成を行うとともに市民の「おもてなしの心」の醸成に努めました
- 麵街道フェスタなどのイベントを通じ、「信州そば発祥の地 伊那」の積極的なPRを行うとともに、そば店やそば打ち愛好者、生産者有志によるそば振興会の設立を支援しました。
- 農業体験等の体験型要素を取り入れた農家民泊の利用促進に努めるとともに、国内外からの教育旅行やアジア諸国を中心としたインバウンドに対応するため、受入態勢の整備等を行いました。
- 中央アルプス、南アルプスにおける登山道整備、案内標識設置、山小屋の建設（西駒山荘、塩見小屋）を行うとともに、二次交通を整備・拡充することにより、山岳観光の充実を図りました。
- 映画やドラマ、プロモーションビデオ、CMなど、市内での撮影を支援する「伊那谷フィルムコミッション」を設置し、映像を活用した観光情報の発信を図りました。

【施策分野における現状と課題】

- 既存の観光素材を最大限に活用し、魅力ある観光の仕掛けづくりと観光誘客宣伝事業を積極的に進め、リピーターの増進と観光消費額拡大が課題となっています。また、観光の特徴である通過型観光を見直して、滞在時間と、訪問回数の増加につながる着地型、体験型観光の構築が必要です。
- 日本ジオパーク、ユネスコエコパークの取組など、観光振興につながる事業との連携が求められています。
- 観光産業の重要性を意識して、市民の観光への理解と意識の高揚を促し、おもてなしのこころの推進とアテンダントへの取組が課題です。
- 伊那谷、木曾谷、諏訪圏域などの広域連携先との地域間交流を推進し、そのメリットを有効活用して、観光客を伊那市に導く仕組みづくりと、経済効果の波及が課題です。

- 教育旅行の販路の拡大、受入れ農家の普及と拡大、さらには大口の団体に対する受入れ対応が可能な農家数の確保が課題であるとともに、近年急増するインバウンドに対応するために、農家への教育の実施と充実が必要です。
- 行政、団体単体での活動は広域的に効果的な広報と誘客を図ることは難しく、行政、各種観光業団体が一体となつてのPR活動、誘客活動を推進することが課題です。
- 利便性向上や老朽化等による施設改修、施設整備の実施と共に、限られた財源で有効かつ効率的な施設整備、改修を行うための整備計画立案は重要な課題です。
- 二次交通の更なる利用者向上のため、利用促進活動と広報活動の検討が必要です。
- 外国人を含めた多様なニーズに対応したホームページの構築や、各種情報媒体、SNSの活用など、効果的かつ迅速な情報発信の対応が必要です。

【第2次総合計画における施策と展開方針】

1 観光資源の構築と有効な活用

- 体験型観光を受け入れるための体制づくりに取組み、経済効果の高い滞在型観光など戦略的な観光施策を推進し、観光人口の増加を図ります。
- 市内の多様な観光資源を生かし、新たな観光サービスにつながる商品、企画の提供を行います。
- 二つのアルプスの魅力を発信するとともに、入笠山や鹿嶺高原などの里山の魅力もあわせて発信するなど、山岳高原観光を推進します。また、日本ジオパークに認定され、ユネスコエコパークに登録されている南アルプスの貴重な観光資源を大切にし、次世代に引き継ぐとともに、積極的な活用を努めます。
- 天下第一と称される「高遠城址公園」の桜をはじめとして、「伊那公園」、「春日公園」や市内各所の桜を「日本一の桜の里」として整備し、観桜期に訪れる多くの観光客をお迎えする体制づくりを構築します。また市内の観光施設とも連携した誘客事業を展開します。
- 「信州そば発祥の地 伊那」のさらなる情報発信を行い、そばによる伊那ブランドの向上を図ります。

2 おもてなしの心の醸成

- 観光産業の重要性を意識して、市民の観光への理解と意識の高揚を促し、観光以外の目的で訪れた方々に対しても、おもてなしの心でお迎えするなど、市民アテンダントへの取組を推進します。
- （一社）伊那市観光協会と連携し、ボランティアガイドの育成と充実を図り、市民団体活動の支援を通じて、市民参加型の観光体制を構築し、観光客の満足度向上をめざします。

3 広域連携及び広域観光の推進

- さらなる相乗効果を発揮させるため、飛騨路、木曾路、伊那谷、諏訪圏域、三遠南信などの圏域、県の枠を越えた広域連携と、より一層の地域間交流の推進を図ります。
- 2018年度（平成30年度）に組織された上伊那版DMO「長野伊那谷観光局」と連携を図り、上伊那管内の市町村にあるさまざまな素材をつなげるなど、広域観光を推進します。
- 旧市町村の古くから培われてきた地域の祭事や伝統行事などの文化を継承し、地域の絆を深めていきます。

4 観光客の需要の把握と対応

- マーケティング調査や旅行関係者へのヒアリング調査など、観光客の需要の的確な把握に努めます。
- 調査の結果を踏まえ、伊那市の自然を生かした「エコツーリズム」や農業体験を実践する「グリーン・ツーリズム」など、プログラムの充実とサービスの提供を行います。

5 農家民泊・インバウンドの推進と充実

- 農家民泊を中心とした国内教育旅行の販路の拡大と受入れ農家数の拡大、特に大口団体客受入れに対応できるよう普及に努めます。
- 近年、教育旅行を含めたインバウンドが増加している中、インバウンドに対する教育を推進し、受入態勢を整備します。
- 収穫などの各種農業体験を通じ、伊那市ならではの農産物の魅力を発信するとともに、観光素材の魅力と結びつけた農観連携を推進します。
- アジアを始めとする諸外国へのインバウンド事業のプロモーション推進のため、（一社）伊那市観光協会と連携します。

6 官民連携による受入れ体制の整備

- 「産業観光」という新たな分野を担うため、農商工観の連携を図ります。
- 観光客誘客の際の、民間と行政の役割分担を明確にし、市民・市民団体を含めた連携を強化し、市全体で歓迎する体制づくりに努め、地域のにぎわいや活性化につなげます。
- 観光推進主体の役割を明確にし、効果的な事業推進体制の構築を目指します。
- 行政、団体だけの活動ではなく、広域的かつ効果的な広報と誘客を図るため、行政、各種観光業団体が一体となつてのPR活動、誘客活動を行います。

7 観光インフラの整備

- 利便性の向上や老朽化等による施設改修、施設整備の実施と共に、限られた財

- 源を有効かつ効率的に施設整備、改修を行うための整備計画の立案を行います。
- 二次交通の更なる利用者向上のため、利用促進活動の推進と有効な広報活動の検討を行います。
- 高遠「しんわの丘ローズガーデン」を含む花の丘公園一帯を都市公園として整備します。
- 全国ばら制定都市会議（ばらサミット）への加盟を機に、計画的にバラを活用したまちづくりを推進します。

8 魅力ある情報の発信と充実

- 世代を越えた幅広い層の人々が興味を引くPRの内容検討と充実、商品の展開、有効な販売経路の確立をめざします。
- 外国人も含めた観光客のニーズに応じたホームページを構築するとともに、各種情報媒体、SNSなど効果的な活用と情報発信に努めます。
- 情報発信拠点として、各観光案内所の充実を図ります。
- 優れた技術を持った「高遠石工」のふるさととして広くPRして誘客につなげるとともに、作品を探訪できる案内の充実を図ります。

【まちづくり指標（KPI）】

まちづくり指標	現状値		目標値		備考 (数値根拠)
	数値	年度	数値	年度	
観光地利用者延べ数	177 万人	2016 (H28)	185 万人	2023	5%増加目標
観光消費額	3,329 百万円	2016 (H28)	3,495 百万円	2023	5%増加目標
ボランティアガイドの養成	41 人	2017 (H29)	50 人	2020 (H32)	
5 週連続そばイベントの提供食数	12,500 食	2015 (H27)	14,000 食	2018 (H30)	
農家民泊を伴う教育旅行来校数	2 校	2012 (H24)	30 校	2019 (H31)	